分野	32	人権	通番 64
施策	322	男女共同参画社会の形成	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
男女共同参画啓発	一般	2	1	17	1,700,199	男女共同参画センター
	一般	2	1	18	795,344	

事業の概要

男女共同参画社会の形成には、あらゆる世代の市民が、固定的性別役割分担意識や男女の不平等感を払拭し、多様な選択を可能とする学習機会を得、男女平等・男女共同参画の視点と意識を持つことが必要であるため、男女共同参画フォーラムをはじめとする各種啓発事業の充実に取り組みます。

令和元年度の取組

D（取組）

指標	審議会等における女性委員の登用率					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	1	2	
38.5（平成26年度）	目標	39.0	39.0	39.5	39.5	40.0	
	実績	36.6	34.8	37.0	34.2		

指標	男女共同参画フォーラムで「男女共同参画意識が深まった」と回答した人の割合					単位	%
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	1	2	
66.3（平成26年度）	目標	70.0	75.0	80.0	80.0	80.0	
	実績	78.4	72.1	84.0	78.2		

・審議会等における女性委員の登用については、長岡京市審議会等への女性委員の登用推進要綱に基づき、事前協議書により確認を行いましたが、登用率は減少となりました。
・令和元年12月7日（土）14：00～15：30　長岡京市立中央公民館
市民を対象に性別や障がいの有無に関わらず、誰もが人権を尊重され自分らしく暮らすことの大切さについて理解を深める学習機会として、金澤翔子さんの書道パフォーマンス「共に生きる」と金澤泰子さんの講演会「ダウン症の娘（こ）と共に生きて」を開催しました。
・「男女共同参画週間事業」や女性への暴力根絶と児童虐待防止を目的とした「パープル＆オレンジリボンプロジェクト2019」をはじめ、市内中学校への「性の多様性」の出前授業や市内高校への「デートDV出前授業」など、市民ニーズに即した多角的な事業展開を図りました。
・男女共同参画センターの愛称を募集しました。応募総数は52件（34名）で、愛称は“いこ～る”プラスに決定、センターの新たな発信につなげることができました。

「人権・男女共同参画フォーラム」

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和元年度の達成状況

C（評価）

	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
評価指標	「地域で」、「社会全般として」男女が平等になっていると考える市民の割合<男女ごと>	・令和元年度実施の意識調査では、「地域で男女平等」と考える割合は、男性が46.4%・女性が35.3%でした。また、「社会全般で男女平等」と考える割合は、男性が24.1%・女性が11.3%でした。「社会全般で男女平等」と考える男性の割合は上昇していますが、女性については、「地域で男女平等」「社会全般で男女平等」いずれの項目も減少となりました。男女平等意識の高まりにより、平等感が減少しているのではないかと推測されます。	201

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・審議会等の女性委員の割合は34.2%でした。目標値39.5%には届きませんでしたが、女性の参画拡大に向け、事前協議書により担当課へ意識づけを行いました。 ・「人権・男女共同参画フォーラム」の参加者は定員を上回る約330人の参加がありました。合同開催のスケールメリットとして、市民ホールイベントが大盛況になるなどの相乗効果がみられました。男女共同参画への意識は5.8ポイント減少したものの89.2%が講演内容が「良かった」と回答しており、満足度の高い講演となりおおむね企画の趣旨は伝わったのではないかと考えます。 ・令和元年度は計17事業実施し目標を上回るの770人の参加がありました。市内高校への「デートＤＶ防止啓発出前授業」のほか、市内中学校教員及び生徒向け「ＬＧＢＴ啓発出前授業」のほか、放課後児童クラブ指導員や済生会病院などを対象に「ＤＶ虐待について」「性の多様性について考える」などの出前ミーティングにも積極的に取り組みました。 ・男女共同参画推進課と女性交流支援センターの統合により、事務の効率化につながり、施策の推進や啓発体制機能の強化につながりました。

課題等	・委員選出をする組織母体に、女性の参画が少ないことが課題です。 ・参加者の年代や性別に偏りがみられるため、様々な年代、性別の方にアプローチできる事業の検討が課題です。

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・引き続き、幅広い分野への女性の参画拡大に向け、担当課へ働きかけを行います。併せて、性別に関わらず、様々な分野で能力を発揮することのできる意識づくりを進めます。 ・「人権・男女共同参画フォーラム」については、人権という大きな括りの中で共生社会の実現に向け、人権・男女共同参画への意識変革に繋がる事業展開を図ります。 ・女性支援のみならず男性支援の視点も踏まえ、男女共同参画啓発事業を充実させるとともに、「性の多様性について」等の人権課題にも積極的に取り組みます。

分野	32	人権	通番 65
施策	322	男女共同参画社会の形成	
5年後の目標		すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。	

概要

P（概要）

実施計画名称（予算事業名称）	予算科目				決算額（円）	担当課
	会計	款	項	目		
女性相談・男性相談	一般	2	1	18	1,496,484	男女共同参画センター

事業の概要

女性が様々な問題や悩みを安心して相談できる体制を整備します。また、DV被害者等へのワンストップ支援体制の充実を図るため、DV相談機能の強化を検討します。
また、男性支援の一つとして男性電話相談を実施します。

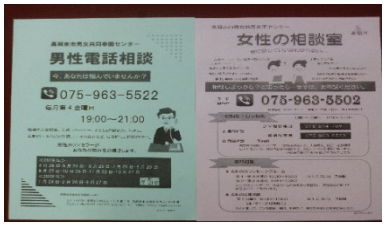
令和元年度の取組

D（取組）

指標（～H29年度）	女性相談のうち専門相談の実相談件数と相談実施率（実相談件数÷相談開設枠数）					単位	件・%
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	1	2	
181件　71.0%（平成26年度）	目標	117件　71.0%	120件　73.0%				
	実績	116件　70.3%	105件　61.4%				

指標（H30年度～）	相談件数合計とDV等相談件数					単位	件・件
現　状（計画策定時）	年度	28	29	30	1	2	
673件　243件（平成28年度）	目標			800件　250件	800件　250件	800件　250件	
	実績			519件　145件	619件　74件		

・相談事業は、常設相談窓口の「一般相談・ＤＶ相談」、専門相談の「女性のカウンセリングルーム」と「女性の法律相談」で運営しており、女性に関わる様々な問題や悩み、離婚問題、ＤＶや家族間暴力等の相談に応じるとともに、就業や起業の相談、分野横断的な情報提供を行っています。市広報やホームページ、公共施設へチラシやリーフレットの配架などにより周知を図りました。
・危険性・緊急性の高いケースについては、長岡京市ＤＶ対策ネットワークの関係機関と連携し支援を行いました。
・相談員の交代があり、ＤＶ等にかかる相談ニーズに適切に対応するため、ケース事例を課内で検討するなど相談体制の充実に努めました。



女性の相談室・男性電話相談

施策の「5年後の目標」に対する評価

令和元年度の達成状況

C（評価）

評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	―	―	―

達成度合	B：目標をほぼ達成できた（目標の80%～100%程度）	達成状況	・令和元年度の相談件数は、「一般相談・ＤＶ相談」が528件、「女性のカウンセリングルーム」が70件、「女性の法律相談」が21件でした。一般電話相談が100件以上増加し、全体で619件の相談がありました。相談事業におけるＤＶ相談は、平成30年度139件から令和元年度は65件（10.5%）と半分以下に減少していますが、相談実人数は、29年度37人、30年度36人、元年度30人と大きく減少していないため、１人あたりの相談回数の減少がＤＶ相談件数の減少に繋がっていると分析しています。 ・「男性電話相談」は、19件。相談内容は①夫婦関係②人間関係/こころ④生き方/親子・家庭と多方面にわたっての男性の悩みが寄せられており、男性支援の受け皿として一定のニーズがあるものと考えます。

課題等

・「ＤＶ被害者へのワンストップ支援」を担うセンターとして、関係機関との連携のもと、個別事案に適切に対応するため、相談体制の一層の強化が求められています。

目標達成に向けての次年度以降の対応

A（行動）

方向性	対応策等
1：計画通りに進めることが適当	・ＤＶ相談対応体制の強化に向け、引き続き、職員の相談対応スキルの向上と、「女性の相談室」及び「ＤＶ相談専用電話」の更なる周知を図ります。